

「公務員試験体験記」

植物生産環境科学科 4年

私は第一志望である長崎県庁の農業職に内定をいただきました。私の経験談が公務員を目指す方々の参考になれば幸いです。

まず公務員試験の勉強を始めたのは、3年生の5月からです。教養科目は公務員講座で対策をして、専門科目は過去問集や教科書を活用することで勉強しました。特に大変だったのは専門科目の農業です。農業職向けの参考書が少なかったので苦労しました。そのため私は過去問集を解き、わからなかった単語や内容を参考書で調べるということを繰り返していました。使用していた参考書は「農学の基礎シリーズ」です。また県庁や国家一般職、国家総合職で試験内容や問題数が違うので志望自治体の試験形式をよく調べることをお勧めします。

そして試験を振り返ってみて感じることは、早いうちに勉強を始めることの重要性です。私の場合、計画通りに勉強しても完璧に理解できないことが多く、その結果、計画がずれてしまうことがよくありました。そのため余裕を持って勉強することが大切だと思います。具体的には年末までに試験範囲を一通り終えておくのが望ましいと感じました。

面接対策についてはとにかく時間をかけて行うことが重要です。自己分析から始まり、志望自治体の研究、エントリーシートの添削、模擬面接などやるべきことが多くあります。私は4月ごろから本格的に対策を行いましたが、準備不足のまま面接に臨むこともありました。そのため遅くとも年明けには面接対策を行った方がいいと思います。また実際の面接では慣れも必要だと思います。そのため第一志望の自治体を受ける前に、民間企業や他の自治体の選考を受けて面接の雰囲気慣れておくことをお勧めします。

さらに公務員試験では情報収集も重要です。試験の内容から勉強の仕方まで、どうすればいいのか迷ってしまうこともありました。そのため公務員講座に参加することや、実際に受験をした先輩に話を聞くことで、情報を収集することが必要だと思います。私の場合は公務員試験を受験した先輩たちが集まる座談会に参加して勉強法や実際の面接についてお話を聞くことができました。また志望自治体の情報収集も欠かせません。インターンシップや説明会等に参加することで自治体の雰囲気や仕事内容を理解できるだけでなく、面接で志望度の高さをアピールすることにもつながります。私は3年生の夏にインターンシップに参加して現場の雰囲気や仕事内容を理解することができ、この経験が長崎県庁で働きたいというモチベーションになりました。

最後になりますが、就職活動はストレスがかかる場面や大変なことが多いと思います。その中で最後まで信じきれるのは自分自身です。最後まで自分の可能性を信じて頑張ってください。

準備が未来を決める ― 就職活動体験記 ―

森林緑地環境科学科4年

これから就職活動を迎える皆さんへ。私の就職活動の体験が少しでも参考になればと思い、この文章を書かせていただきます。

私が本格的に就職活動を意識し始めたのは、3年生の夏に参加した1週間のインターンシップがきっかけです。私の学科では公務員志望の学生が多いですが、私は民間企業のみエントリーしました。公務員試験とは異なり、民間企業では面接が重視される場合が多く、企業によっては筆記試験や適性検査もあります。そのため、自分に合った対策方法を見つけることが大切だと感じました。

「準備」

私が一番伝えたいのは準備です。就職活動は夏頃から始まる人が多いですが、本当に大事なのはその前の準備期間です。まずは自己分析。自分がどのような仕事をしたいのか、どのような働き方をしたいのか、何が得意で何が苦手なのか。ここが曖昧なままだと、企業選びで迷います。企業は数え切れないほどあるため、やみくもに調べるのは大変です。次に企業研究。その会社が何をしていたり、どのような強みがあり、自分がどのように関われるのかまで考えられると、志望動機にも説得力が生まれます。自己分析と企業研究。この準備ができていくかどうかで、その後の結果は大きく変わります。

また、インターンシップにはぜひ参加してほしいです。私は3年生の夏に、1週間と1dayのインターンに参加しました。実際に職場の雰囲気を知り、自分に合っているかどうかを見極めることができる貴重な機会になります。さらに、インターンに参加した経験は面接でも話すことができるため、大きな強みになります。

民間企業の就職活動では、面接が最も重要な選考です。面接対策も決して怠らず、十分に準備を行ってください。特に大切なのは第一印象です。面接は最初の数秒で印象が決まるとも言われています。明るく、はきはきと話すことを意識するだけでも、印象は大きく変わります。緊張する場面ではありますが、できるだけ自然体で臨むことが大切です。また、一般的な面接対策だけでは不十分だと感じました。私の場合、研究内容について深く質問され、専門用語の意味や、なぜその研究を行っているのかなど、かなり踏み込んだ質問を受けました。そのため、自分の研究について、専門外の人にも分かりやすく説明できるよう、しっかりと復習・整理しておくことが必要です。専門知識の準備も、面接対策の一つとして重要だと思います。

最後に就職活動の進め方は人それぞれ異なります。早くから準備を進める人もいれば、短期間で就職活動を終える人もいます。周りとは比べすぎる必要はありません。大切なのは、自分に合ったやり方を見つけること、そして何より、準備を怠らないことです。つらいこともあるかもしれませんが、しかし、その経験は必ず自分の力になります。自分を信じて、頑張ってください。応援しています！

就職活動体験記

応用生物科学科4年

私は第一志望であった県警察本部の科学捜査研究所（以下、科捜研）に鑑定技術職員として採用されました。科捜研は、犯罪や事故現場に残された証拠を科学的に分析し、捜査を支える専門職です。特殊な職種で情報が少なく、手探りでの就職活動となりましたが、私の経験が参考になれば幸いです。

科捜研の採用試験は一般的な公務員試験と異なり、試験内容は非公開で過去問もありません。また定期採用ではなく、欠員が生じた場合のみ募集されるため、採用人数は1名程度と非常に狭き門です。募集時期も自治体ごとに異なるため、各自治体の情報を継続的に確認する必要があります。さらに、募集期間が短い場合もあるため、日頃からこまめに情報収集を行い、応募の機会を逃さない姿勢が重要であると感じました。加えて、説明会や職員の方の話から得られる情報も貴重であり、積極的に参加することが理解を深めるうえで有効でした。

私は大学3年2月から公務員試験の学習を開始しました。開始が遅かったため、全範囲の対策は難しく、教養の理数系科目と専門科目に重点を置いて学習しました。また、限られた時間の中で効率よく学習を進めるために、苦手分野の基礎固めと頻出分野の反復を意識しました。情報収集は主にインターネットを用い、業務内容から必要な知識を推測して学習内容を決定しました。

一次試験では、化学・生物・遺伝子工学などの専門試験と論文試験が課されました。論文では、科学的視点だけでなく社会的意義や倫理観も踏まえた記述が求められると感じました。二次試験の面接は一般的な質問に加え、対人関係や研究内容に関する深い理解が求められました。また、腐敗遺体や血液を扱う業務に対する考えを問われるなど、職務の特殊性を実感しました。

最も苦労したのは、試験内容が不透明な中で対策の正しさに確信が持てなかったことです。そのため、自ら情報を集め、業務理解を深めながら学習を継続することが重要だと感じました。また、不安を抱えたまま対策を進めることになるため、精神面の自己管理も重要であると実感しました。

反省点として、準備開始が遅かったことが挙げられます。早期に目標を定め、余裕を持って対策することが重要です。私は公務員講座を活用し、学習方針や併願戦略について助言を受け、面接対策も繰り返し行うことで自信を持って本番に臨むことができました。

就職活動では不安を感じることも多いと思いますが、周囲の支援を活用しながら、自分なりの道を切り開いてください。皆様の就職活動が実り多いものとなることを願っています。

就職活動体験記

海洋生物環境学科 4年

私は茨城県の企業に内定をいただき、4月から働かせていただくことになりました。これから就職活動を始めの皆さんに、私の就職活動体験記が少しでもお役に立てれば幸いです。

私の就職活動は、3年生の9月に始まりました。当初は明確な志望職種があったわけではなく、同級生が就職活動を始めていることに焦りを感じ、自分も何か行動しなければという思いで仕事体験に参加したのがきっかけでした。そのため、周囲と比べると比較的遅いスタートだったと感じています。その後、仕事体験に参加した企業から早期選考の案内をいただき、12月にエントリーシート（ES）を提出し、一次面接を受けました。ESの作成は、これまでの人生の中で最も自分自身と向き合った時間だったと感じています。自分の強みは何か、どのような仕事に携わりたいのかを深く考える機会となりました。この過程を丁寧に行ったことで、その後の二次・三次面接や他企業での就職活動にも落ち着いて臨むことができたと感じています。

その後、就職活動を進める中で、さまざまな分野の仕事があることを知りました。同時に、企業にも自分に合う企業と合わない企業があることを実感しました。実際に私は、最初に面接を受けた企業から内定をいただいていたのですが、その後の就職活動の中でより自分に合った企業を見つけ、最終的にその企業への就職を決めました。当初志望していた職種とは異なる分野でしたが、分野を絞りすぎることなく幅広く探していたことで、この企業に出会うことができました。この経験から、興味のない分野であっても説明会などに参加することの重要性を実感しました。また、自分が何を重視したいのかを明確にしていたことで、大きく迷うことなく就職活動を進めることができました。私の場合、仕事の内容は入社後に身につけていくものだと考えていたため、社員の方の雰囲気や会社の制度といった点を重視して企業を選びました。

就職活動における選考や面接は、企業が一方的に学生を選ぶ場であると捉えがちですが、実際にはそうではありません。企業の方針や社風と自分自身の価値観が合っているかを確認し、お互いに理解を深めていく「すり合わせの場」です。そのため、必要以上に自分を取り繕うのではなく、ありのままの自分で臨むことが大切です。自分に合った環境を見極めるという意識を持つことで、納得のいく就職活動につながると思います。

就職活動は自分自身との戦いです。周りの友人が内定を得ていると、焦りを感じることもあると思います。しかし大切なのは、自分自身をどれだけ理解し、それを相手に伝えられるかという点です。就職活動を、長い人生の中で自分と向き合う貴重な機会として捉えてほしいと思います。自分を信じて、最後まで頑張ってください。皆さんがより良い道へと進めることを心から願っています。

「就職のことは早めに考え、行動すべし」 獣医学科 6年

獣医学科の就職活動は、他学科と比べて特殊だと言われています。そのため、いわゆるネット上の就活攻略法が当てはまらないことも多く、私自身も苦勞しました。情報が少ない状況なので、先輩や先生、同級生から話を聞き、情報交換を行うことがとても大事だったと感じました。これを読んでいる方も、自ら積極的に情報収集を行うことを前提とし、そのうえで本稿の経験談が一助となれば幸いです。

まず、私の就職活動の概要を紹介します。4年次には、動物園、動物病院、公務員を進路候補として考えていました。その後、そこからいろんな場所に実習に行きながら、候補を徐々に絞り、最終的には、地方公務員に就職を決めました。したがって、進路に悩んでいる方や地方公務員試験の受験を検討している方の参考になればと思います。私がこれから就職活動を行う獣医学生に伝えたいことは、「実習には早めに行くこと」「公務員のVPキャンプの機会を逃さないこと」「自己分析を早めに行うこと」の3点です。

一つ目は、「実習には早く行くこと」です。4年次以降は、研究室によっては休みが取りづらくなるほか、自身の研究で予定が埋まり、実習に参加できる機会が限られてきます。そのため、実習に行ける回数は想像以上に少ないと考えておいた方がよいでしょう。入った研究室が忙しそうだなと感じた場合は、就職に関わる実習や見学には早めに参加することを強く勧めます。私自身、就職が決まるまでに動物園1か所、地方公務員1か所、動物病院4か所で実習・見学を行いました。行きたかったすべての施設を回ることはできず、もっと早く行動すべきだったと感じました。

二つ目は、「公務員のVPキャンプの機会を逃さないこと」です。公務員獣医師の実習や見学はVPキャンプを通じて募集されることが多いですが、このVPキャンプは開催時期や対象学年が限られています。多くの場合、6年次では参加できないため、実質的には4年次および5年次の夏の2回がチャンスといえます。私は4年次には参加せず、5年次に姫路市のVPキャンプに参加しました。当時は動物園も進路の一つとして考えていたため、動物園を有する自治体を選びましたが、その結果、本命となり得た自治体のVPキャンプに参加できませんでした。興味のある分野に触れることも大切ですが、本命の進路に関わる機会を逃さないよう、計画的に参加することが重要です。また、後から公務員志望に切り替える可能性もあるため、現時点で第一志望でなくてもVPキャンプに参加しておくことを勧めます。

最後に、「自己分析を早めに行うこと」です。進路が定まっていない人ほど、早期に自己分析を行うべきです。一般企業志望であれば5年次には本格的に就職活動が始まりますし、公務員でも早い自治体では5年次の冬に募集が始まります。「臨床実習を経験してから決める」という考え方もありますが、時間的に余裕がないため、あまり現実的ではありません。早い段階からネットや書籍を活用し、他学科の学生と同様に自己分析を行い、自分に合った進路をじっくり考える時間を確保することが重要です。以上の経験から、就職活動においては「早めの行動」が何よりも重要であると実感しました。